

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要		■ 外観	
建物名称	(仮称)熊本東京海上日動ビルディング	階数	地上7F、地下1F
建設地	熊本県熊本市中央区水道町5-11	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	600 人
気候区分	6地域	年間使用時間	720 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 竣工	評価の実施日	2020年3月10日
敷地面積	1,150 m ²	作成者	塩田
建築面積	968 m ²	確認日	2020年3月10日
延床面積	7,873 m ²	確認者	菅波



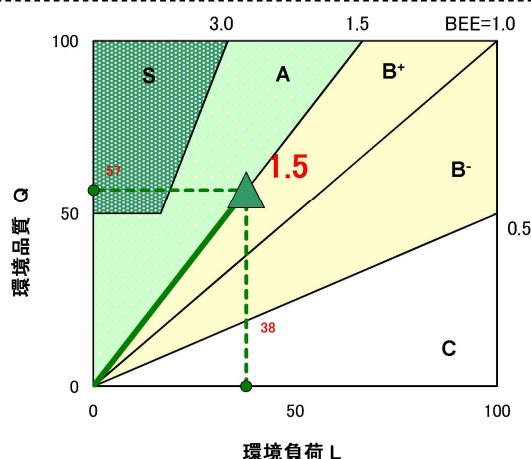
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.5

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$



■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

78%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

88

評価点

【重点事項1】温室効果ガス排出量削減の推進

95.6

【重点事項2】安全安心で暮らしやすい社会の実現

77.5

【重点事項3】県の地域資源の有効活用と保全

87.5

【重点事項4】循環型社会の実現

83.2

■ 熊本県重点評価基準

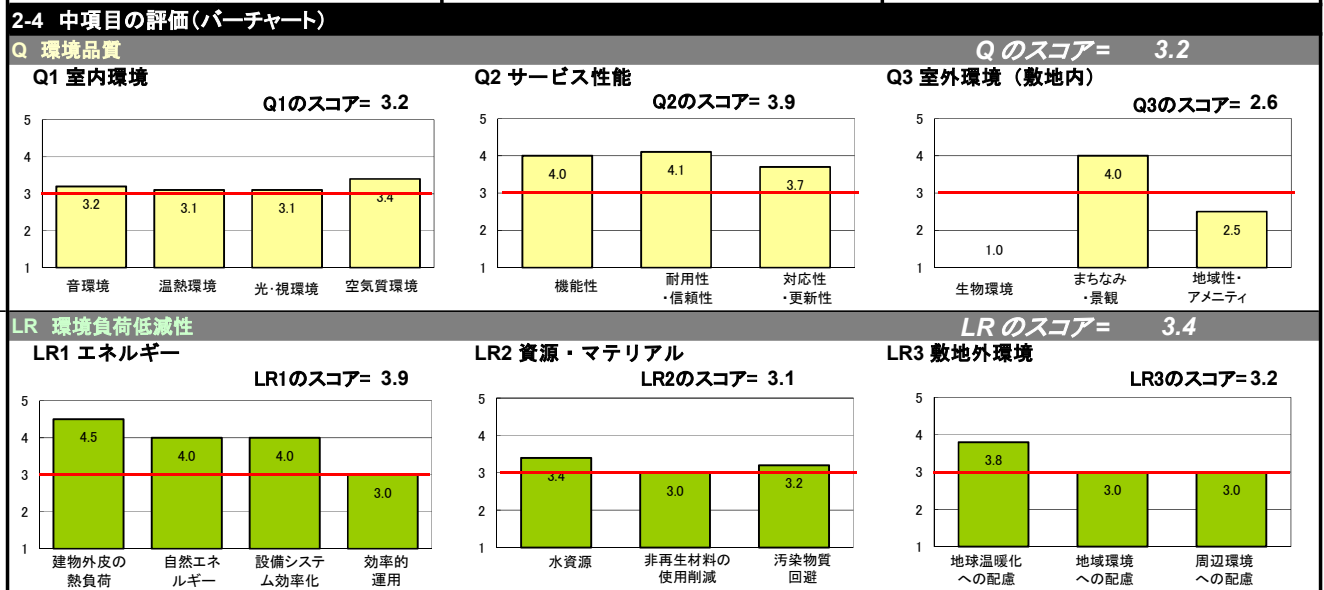
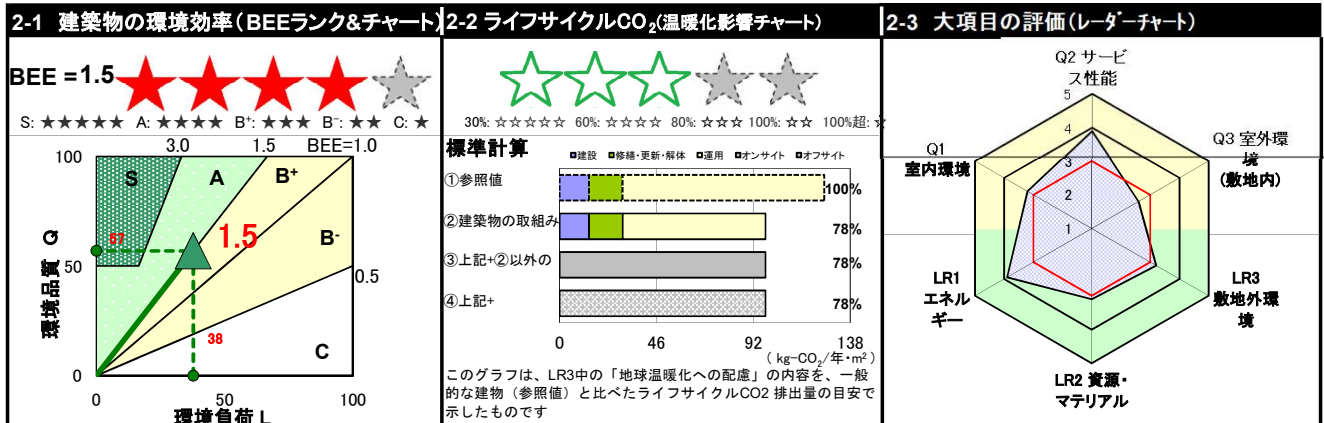
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)熊本東京海上日動ビルディング	階数	地上7F、地下1F
建設地	熊本県熊本市中央区水道町5-11	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	600 人
気候区分	6地域	年間使用時間	720 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 竣工	評価の実施日	2020年3月10日
敷地面積	1,150 m ²	作成者	塩田
建築面積	968 m ²	確認日	2020年3月10日
延床面積	7,873 m ²	確認者	菅波



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版
(仮称)熊本東京海上日動ビルディング

欄に数値またはコメントを記入

 ■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.2
Q1 室内環境			0.40		-	3.2
1 音環境		3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		3.1	0.35	-	-	3.1
2.1 室温制御		3.3	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-	
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境		3.4	0.25	-	-	3.4
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		4.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.3	0.30	-	-	
1 換気量		4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理		2.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.9
1 機能性		4.0	0.40	-	-	4.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		4.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	
3 内装計画		5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		5.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		4.1	0.30	-	-	4.1
2.1 耐震・免震		4.6	0.50	-	-	
1 耐震性		5.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		4.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		5.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		4.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり		4.6	0.30	-	-	
	2	空間の形状・自由さ		5.0	0.60	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				4.0	0.40	3.0	-	
				4.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性				2.8	0.40	-	-	
1	1	空調配管の更新性		2.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制				4.5	0.20	-	-	4.5
2 自然エネルギー利用				4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化				BEI 非住宅 0.71 住宅(専有部) 0.83	4.0	0.50	-	4.0
	集合住宅以外の評価(3a.3b)			4.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.2	0.20	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	
1	消火剤			4.0	0.33	-	-	
	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.33	-	-	
	冷媒			3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮				3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
	交通負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
3	廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動			3.0	0.33	-	-	
	悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

働きやすく、BCP対応を重要視した事務所建物を目指しています。
デザインについては、熊本の雄大な自然と熊本城をモチーフとした、多彩な表情のデザインとしています。

Q1 室内環境

室内環境については、適切な温度・光・音環境の計画とし、事務所での作業環境が良好となる計画としています。

Q2 サービス性能

サービス性能については、必要十分な広さ・天井高さ、耐震性能とすることにより、安全で快適な空間を計画します。

Q3 室外環境（敷地内）

室外環境については、街並みに配慮した、熊本らしいデザインとしています。また、人が多く集まる交差点の良好な景観を形成します。

LR1 エネルギー

エネルギー効率性の高い設備を使用するとともに、無駄の少ない設備機器の計画とします。

LR2 資源・マテリアル

木材やリサイクル素材、有害物質の発生が少ない環境に配慮した素材の使用に努めます。

LR3 敷地外環境

周辺地域への影響を考慮した、交通計画、排水計画、騒音対策を行います。

その他

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)熊本東京海上日動ビルディング

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		88
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				95.6	0.40	38.24
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.5	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				77.5	0.20	15.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	5.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				87.5	0.20	17.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				83.2	0.20	16.64
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数